

国立環境研究所(総合)

外部研究評価委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

○全体として、ほぼ計画通りに研究が進んで重要な成果を上げており、世界を先導する分野もある。災害廃棄物、放射能汚染、PM2.5 など、突発した環境問題に献身的に即応し、政策貢献も大きい。

今後への期待など

○多くの分野(センター)が設定されているが、縦割りの弊害が出ないように、また、複合的な問題を解決すべく、適宜分野間連携や新分野設定を議論・実行して欲しい。

○海外の大学・研究機関との連携を積極的に進め、国際的なプロジェクトや組織を主導して欲しい。

○これまでの政策貢献型研究を継続・強化しつつ、ウェブサイトの充実やメディアの積極的活用を通じて社会への情報発信を強化すべきだ。

○これまでの重要な研究を継続し、アジア諸国などでの研究を発展するためにも人材の育成・確保が重要だ。また、国立環境研究所ならではの大規模プロジェクトや災害環境研究を着実に遂行する体制が必要だ。

主要意見に対する国環研の考え方

①本研究所の研究活動による学術面および社会面の貢献について高く評価いただき感謝申し上げます。引き続き学術分野や社会の期待に沿うべく努力致します。

②分野を横断する環境問題については、複数の研究分野が参加する研究プログラムを設定して柔軟に対応してきました。また、次期中期計画の議論の中で、今後の研究の在り方に関して特に重要な課題については、ワーキンググループを設置して検討を進めています。

③海外との連携については、アジア諸国の環境問題に関する研究課題を中心にさらに強化しています。また、様々な国際的プロジェクトにも積極的に参画し、強みのある分野・課題で主導していきます。

④これまで行ってきた政策貢献型研究を継続しつつ、新たな課題への準備・対応力を充実するとともに、様々なメディアを積極的に活用し、研究成果の社会における認知度を高めます。

⑤これまでの研究資産を継承できるよう人材の育成・確保に努力します。アジア諸国での研究については人材育成ワークショップも開催しています。今後の中期計画の中でとりあげるプロジェクトの規模に応じて研究・運営体制を検討します。また、災害環境研究においては、個々の研究プロジェクトを統合的に遂行する体制の構築を進めているところです。